

## 第2期武蔵野市環境啓発施設運営会議（第6回）議事要録

日 時 令和4年8月29日（月）開会 午後6時 閉会 午後8時

開催方法 Web 会議システム使用によるオンライン開催

参加者 委員9名、事務局6名

小澤委員長、鈴木副委員長、宮坂委員、中西委員、村井委員、新保委員、野村委員、奥野委員、朝生委員

### 1 報告事項

- (1) 事業実施状況について
- (2) 施設運用について

### 2 議事

令和4年度後期事業の取組について

### 3 その他

#### 委員意見・質疑及び事務局回答

発言者	要旨
1. 報告事項	
事務局	<p>環境月間の実施結果報告。6月1日から30日まで、エコreゾートで環境展を実施。気候変動に関する展示や、環境省のクールチョイスに関する展示や、クイズを実施した。またSDGs展示はエネルギーに関する質問「どこにたくさんエネルギーを使っているか？」という質問に対する回答を展示した。例えば、冷房を使うことでのCO2排出量は、皆さんが考えているより少ないギャップがある。熱中症対策をとりながら適切に使用していくことが求められる。緑のカーテン事業はエコリゾート以外でも苗を配布した。商業施設でも配布を行い、昨年度の倍程度の配布数となった。こどもエコクラブのチラシを全校配布。クラブ数は順調に増加している。夏頃までワクチン接種会場を想定していたため、苗配布を外で行うこととしたが、早い段階で接種会場が終わり、環境展の実施から本来のむさしのエコreゾートの様相に戻ることになった。それまで1日20人程度の来館者数だったが、ほぼ昨年度同様の来館者数に戻ることになった。アンケートではクイズの人気が高く、また来館のきっかけでは「その他」のところで、たまたま通りかかった方も多く見られた。</p> <p>環境啓発冊子の配布について。これまでも配布していた小学校3年生向け冊子を改訂「～」というタイトルで、ウェブ版も作成。また、配るだけでなく、ワークシートを付けむさしのエコreゾートに提出してもらう仕組みとした。また、ウェブ上に写真をアップロードし、「マイ生き物図鑑」を作るシステムも導入した。当初想定よりも遙かに手に取られる数が多くなっている。</p> <p>環境フェスタ inSUMMER の実施結果について。年初では、ワクチン</p>

	<p>接種会場終わりに合わせた集客イベントとして想定していた。市報の一面での周知や、子どもエコの実通信を発行し、全校配布を実施。結果、25 日間の実施だが、平均すると通常稼働の土日の来場者数がずっと続いていた程度。また、先に紹介した冊子を活用したワークショップなども実施。また SDG s 展示では「水」をテーマに実施し、普段飲んでいる水や下水に流していけないものは、といった質問から展示につなげる形にした。またゴーヤレポートの展示や打ち水も実施。お楽しみのイベントとして、スクリーンの海に自分が書いた魚が泳ぎ出す装置を活用。海ごみに関する展示と一緒に見せ、啓発につなげた。ほか、紙芝居などさまざまなワークショップを実施。市民団体の多様なワークショップに対し、参加したいワークショップを選んで来るお客様が多かった。コロナでこれまで出来ていなかった、施設本来の活用方法を体現できた手応えを感じている。</p> <p>資料 4 環境フェスタと市民団体との接点について。青空市が行われないことになったことから、多くの来場者の流入が見込まれなくなった環境フェスタだが、今後、どのような形で実施をしていくべきか。アンケートを実施した。環境フェスタと団体との接点を主軸に設問を組んだが、回答数が芳しくなく、また先に紹介した in SUMMER 前に実施したこともあり、評価がしにくかった部分もあると思う。今後どのような形でフェスタを実施するべきかを相談したい。</p> <p>環境の学校実施状況について。連続講座、グリーンプロジェクト、PR プロジェクトの 3 本立てで実施している。環境の学校は 1 日目を公開講座として実施。ブロックを活用したワークショップを開催した。次回はむさしのエコ re ゴートの紹介や成り立ちなどを紹介する講座を予定している。グリーンプロジェクトは、環境の学校から草花や緑に関連した環境問題をテーマにした講座を実施している。今年度は緑のカーテン事業と連動し、ゴーヤの植え付けの公開講座を実施。またカフェスペースを利用したゴーヤの調理方法をごみを出さないエコクッキングとして紹介した。PR プロジェクトは発信、広報をテーマにした連続講座。高校生大学生世代を対象としている。先日、編集の基礎を学ぶ第 1 回目を開催。商業施設の屋上でコンポストを利用する</p>
委員長	In SUMMER に参加した。スタッフもよく展示を考え製作していた。また、冊子を活用した展示や、水の学校サポーターズサロンの方とも
委員	ワクチン接種会場との関係で大変な部分があったと思う。また他の場所の活用にも苦労があったと思う。戦略的に他の場所を活用する方向性をおたずねしたい。
事務局	3 駅を中心に、という点は意識しているが、なかなかうまくいかない部分もあると実感している。市外の方が多い地域や、商業施設ではどのようなタイミングであれば苗の配布が渡しやすいかなど、苦戦した部分もある。
事務局	気候市民会議実施について説明。前回説明のとおり 7 月から 11 月

	<p>まで、月1回全5回開催する。第2回まで終了し、第1回の様子を紹介。</p> <p>5市共同事業「子ども体験塾」について説明。今年度、武蔵野市が幹事市となっている。9月1日号市報においても紹介される。最初のイベントとして、デジタルスタンプラリーを実施。各市の環境に関する施設を巡るスタンプラリーとクイズを体験してもらい、最終的にむさしのエコreゾートに来てノベルティがもらえる仕組みとなっている。むさしのエコreゾートでのイベントでは、くぼてんきさんによる講演会やむさしのエコreゾート壁面を使ったプロジェクションマッピングを実施する予定。また、今年度の環境フェスタについては、このイベントがある前提で時期をずらしている。</p>
委員	気候市民会議の実施について、市外の参加はどのような人か？
事務局	市内在勤、在学の方を対象にしている。
委員長	2回目の会議に参加したが、若い方が多い印象を受けた。買い物することが投票、という問いについては、もっと集約した形での発案があってもよいかと思った。オンラインでのハイブリッド開催がうまく出来ていたと感じる。他の自治体からも傍聴者がいたことに驚いた。
委員	5市共同事業について、資料を拝見し、未確定の部分については今後どのようにしていくのか。
事務局	具体的な内容はかなり詰まってきた。5市の特徴として、大都市に近いが緑が多い、という共通点を軸に考えている。
事務局	地域防災計画の改訂について説明。所管は防災課。災害対策基本法に基づき策定されており、災害の予防から復興に至るまで規定されている。災害時におけるペット対策について、計画案に動物救護本部をむさしのエコreゾートに設置する旨、記載される。主な役割としては、傷病動物への対応や放浪動物の都に引き継ぐまでの一時保護など。
委員長	災害発生時に動物のゲージを置くということか。
事務局	事務局の役割が主となるが、都への引渡しまでに一時保護する動物のゲージを置くことにはなる。
委員	むさしのエコreゾートは芝生広場や屋根のある空間があるが、動物のいる場所ということで、人間の進入を排除することになるのか。
事務局	施設全体の使用方法については今後、パブリックコメントの実施を経て決まっていく。現段階では案として本部の設置を記載している。
委員長	災害時のむさしのエコreゾートの使用方法については「整備に向けた基本的な考え方」の際には特段議論されていない。どのような検討を経たのか明示があってパブリックコメントを実施すべき。
委員	都の役割と市の役割を明確にした上で計画への記載をお願いしたい。
事務局	今回の検討にあたっては他部署との調整の上、動物保護ありき、という決め方ではない。まずは人を優先、という考え方。むさしの

	エコ re ゾートの役割が決まっていなかったところ、救護本部の設置を調整した。また他市でもそういった本部の設置は明記されている。また放浪動物については、人に対する被害も想定されることから、必要な設備と認識している。
委員長	この委員会は意思決定の場ではないが、事前の説明とは食い違いがあるように感じる。どのような経緯で決まったことなのかが分からない。了承する立場ではないが、なぜむさしのエコ re ゾートで決まったことなのか、明確にしてもらいたい。
事務局	ご意見を受け止め検討したい。
委員長	論理的なエビデンスを含めた明示をお願いしたい。
事務局	むさしのエコ re ゾート・武蔵野クリーンセンター施設予約利用について説明。6月以降の周知や申込の開始、また予約状況の説明。9月から、先着利用の申込も開始する。現状の課題として、登録者数の増加を目指す、また利用可能なスペースの活用方法が挙げられる。前回の会議の提示からの変更点は、施設貸出の対象となる範囲について、2階アーカイブを除外した。また、参加費の限度額を設定した。
委員	芝生広場・どんぐり広場は貸出の対象か？
事務局	貸出の対象からは外れている。
委員長	需要はあると考えられるかいかがか。
事務局	今回は試行であり、ご意見や要望があれば検討していきたい。
委員長	音の問題や制約もあるかと思う。そういった点も含めて検討していただきたい。
事務局	新型コロナウイルス感染症の影響について説明。オミクロン株に対応したワクチン接種への対応として、むさしのエコ re ゾートの接種会場使用を想定している。プラットフォーム側のみ使用予定。事業実施の制約もあるが、通常では来られない方々に対し、認知してもらえる機会とも捉えている。また、むさしのエコ re ゾートでの事業実施期間にはワクチン接種会場として利用しないことを要請している。
委員	接種会場として使用していた日数が提示されているとのことだが、記載されている日数の間、むさしのエコ re ゾートにおいてはプラットフォームを使用していたということか。
事務局	その通りである。ただ事業時には通常使用に戻っていたこともあり、通しで使用していたということではない。
委員	職員数が少ない中、工夫していると思う。プラットフォーム全面を使用するのではなく、一部の使用に限定するなど、効率的な使い方を検討してもらいたい。また、他の施設も候補に挙げるなども検討できると思われる。
2. 議事	
事務局	資料 12「令和4年度後期事業の取組みについて」説明。後期においても、実地で開催できない事業はオンラインも活用することを前提としたい。また、環境フェスタについては、市民団体との新しい

	接点の組み立て方を検討していく。
委員	環境フェスタについて、夏の「in SUMMER」で終わりではないと知って安心した。今後のスケジュールを知りたい。
事務局	速やかに取組を進めていきたいと考えており、受託事業者の選定から。
3. その他	
事務局	あったかまつりの開催について説明。今年度 20 回目のあったかまつりを 10 月 15 日（土）、エコ re ゴートにて開催予定。障害に関する理解を深めるため、市民団体をはじめとし、障害をお持ちの方やそのご家族が互いに交流をしながら、エコ re ゴートでの開催とのことで、環境に関するワークショップの開催も予定している。
委員長	様々な方が関わりあいを持てる施設を目指してもらいたい。ありがとうございました。